

# 大田から世界へ飛翔する 航空機部品の加工で磨いた 削り出し技術の粋

神田工業

神田工業(大田区仲六郷、神田喜雅社長、03・3731・3601)は、昭和17年創業、機械加工業として70年以上の業歴をもつ。航空機部品の加工をメインに、各種精密機器の開発加工組立を行っている。

同社の特長は、部品の形成をインゴット(素材のかたまり)から旋盤やフライス盤を用いて形成する削り出し加工の技術にある。圧延

で発生する素材密度のむらや内部のひび割れ等という問題を起こさず、加工しにくい性質の素材でも正確に削り出すことができ、機械加工の主流である鋳造と比べて寸法精度が高まり、滑らかで凹凸の少ない表面になる。この技術を磨き続けた結果、米国ボーイング社から協力認定工場の指定を受けるまでに成長した。

多品種少ロットが当然になった昨今、削り出しの技術を活かすことで、品質の向上が図られることはもちろん、金型製作費・製作日数を省いてコストの削減を行えるため、よりお客様のニーズに合った製品の提供を可能にしている。結果、航空機部品のみならず、高速鉄道車輛、半導体の製造、試験機器の精密加工、組立にまで技術用途の幅を拡大した。それに伴い、福島・秋田にも工場を建設。東北出身の若手の採用にも積極的に取り組んでいる。

今後は、日本国内に留まらず海外でも自社工場を展開し、より効率的な生産を行っていききたいとの展望をもっている。「地方出身の若手技術者を世界で通用する技術者に育てたい。彼らの活躍は、当社の技術が世界で認められることにつながるはず」と神田社長は自信を覗かせる。

詳しくはホームページにて  
(<http://www.kanda-k.co.jp>)



航空機模型と神田社長



同社の技術力が結集した機械部品の数々